

ああ、母よ！ 登山家・田部井淳子へのレクイエム

どんなにつらいときにも、

常に笑顔でいなさい

株式会社タベイプランニング 代表取締役 田部井進也



田部井淳子さんは一九七五（昭和50）年、世界最高峰エベレストに女性世界初の登頂に成功し、九二（平成4）年には女性で世界初の七大陸最高峰登頂者となった。昨年一〇月に亡くなった淳子さんの思い出を、長男の進也さんに語っていただいた。

僕は、母がエベレスト登山を成し遂げた三年後に生まれました。そのため、子どもの頃から、周囲の方々に「お母さんはすごい人なんだよ」とよく言われたものです。

けれども、自分にとって母は母でしかなくて、「すごい」とか「偉大さ」とかはよくわからないというのが正直なところでした。「母親が、たまたま山に登っていた」というだけで……。母は、自分が登山家だと名乗ったことは、実は一度もないんです。何かの書類の職業欄に書く

必要があるときは、いつも「主婦」、もしくは「会社役員」とだけ書いていました。自分のことを、登山家ではなく「登山愛好家」と捉えていたと思います。自分が仕事で稼いだお金をつぎ込んで、登りたい山に登っていた。つまり、登山は母にとって趣味であって、仕事ではなかったのです。母は常々、「登山というのは、人と競うものじゃない。体力があってもなくても、みんなが自分のペースで楽しめるのが登山なのよ」と言っていました。

なぜエベレストに登ったのかを母に聞いたら、「行ってみたかったから」とだけ答えたことがあります（笑）。まさに登山愛好家の感覚なんです。有名な登山家には、「自分は国の威信を背負って登るのだ」という強い使命感で登山に臨む人が少なくありませんが、母にはそういうところがなかったのです。

そんなふうには、あまりに自然体だったので、僕には母のすごさがよくわかっていませんでした。でも、亡くなったあと、母の回顧展を開かせていただくなかで、多くの方から母についてのお話を聞かせていただき、「すごい人だったんだな」とようやく気づいたので。

*

母へのがん告知の場には、たまたま僕が居合わせました。僕としては大変なショックだったのですが、その次の瞬間、母は自然な口調で「じゃあ、いつ切りますか？」と医師に聞きました。そして、スケジュール帳をサッと開いて「このへんの時期なら空けられますけど……」と、手術日までその場で決めようとしたのです。がん告知にも、まったく動じていませんでした。母は登山中に雪崩に巻き込まれるなどして、命の危険にさらされたことが何度もあるので、死に對

※「田部井淳子 思い出の展示会～77年の軌跡～」を福島県田村郡三春町、三春交流館「まほら」で4月28日（金）まで開催中